オンラインで祈る

■谷口 真梁

どんな分野でも可能性はある．水と油な印象もある宗教とIT，始めてみるとそうではなかった．私が住職を務める四国八十八ヶ所霊場第二十二番札所平等寺は，2020年4月26日から今日まで，24時間4K画質で本堂内のライブ配信を続けている（YouTube，ニコ生，TikTok Live等）．

最初は，本堂へと続く長い階段を登れない人のために始めるつもりだった．足腰に効くという仏をまつるが，その足腰に問題を抱えている人は，仏前にたどり着けない．2020年1月，実験的に配信してみたが，よく分からないまま30分で止まった．いつか勉強しようとのんびり構えていると，新型感染症の騒ぎが始まり，突如，参拝者が途絶えた．

四国八十八ヶ所は，1200年前から続く，弘法大師空海の88の足跡（寺）を辿りながら四国を1周する修行の場である．近年は日本有数の巡礼ツーリズムとしても成長し，年間10万から20万人ほどの参拝者が訪れる．車では2週間，徒歩なら40日ほどの距離．2020年の春は，さまざまな要因で巡礼者増加が予想されていたが，蓋を開けてみれば，近所の家族連れが日暮れどきに参拝するのみだった．

そこで，急ぎ機材を揃え，来られなくなってしまった参拝者のために配信を開始した．

開始から半年経ったころには，毎日朝・夕のお勤めに200人から700人ほど人が集まり，コミュニティが生まれた．2021年の初詣では，リモート除夜の鐘（参拝者がチャットでコマンドを送りロボットアームを操

■ 谷口 真梁
宗教法人 平等寺 住職

高野山大学博士後期課程（専攻：仏教宇宙論）の後，高野山真言宗・総本山金剛峯寺国際局勤務．国際局課長心得，米国高野山真言宗本部長，シアトル高野山理事長などを経て，四国霊場第二十二番札所平等寺住職．

作して鐘を撞く）や3日間の護摩祈祷で，10数万人のリモート参拝者があった．Webサイトで祈願を受け付け，私がお勤めで代読する．ときには3時間を超えて名前と願いを読み上げた．

祈りたい人はどこにでもいて，内容は人それぞれ．入院先から病気平癒を祈ったり，施設から孫の合格祈願を祈る人などがおられた．「誰一人取り残さない」とまではいえないが，当初の目的から広がり，これまで宗教が届かなかった人にも祈りの場を提供できるようになった．

寺にも変化が起きる．以前は1時間も読経していると，姿勢を正してじっと祈る参拝者から「……まだかな？」という無言の圧を感じていた．相手の様子が「台所でお弁当を作りながら朝勤行に参加！」や「通勤中に電車で聞きます」などと変化すると，祈りたいだけ祈ってよい状況になった．

参拝者は場所や時間に制約されず，僧侶は祈りに専念できる．

宗教とITは，思ったより相性が良かったのだ．たぶん今，世界中のあらゆる分野で，こんなことが起きているんだろうと思うと，嬉しくなる．

私は学生時代，宗教系大学の講義そっちのけでオープンソース活動に熱中し，Mozillaの日本語パックなどを作っていた．現在はNext.jsとNest.js，ときどきRustという構成で平等寺オンラインというWebサービスを開発し，さまざまな宗教行為を行っている．とてもたのしい日々だ．